

生活に彩を添える木の魅力

木工ノニネ

■家具職人 order&original furniture

東温市北方、医王寺を曲がった先に工房を構える木工ノニネ。野中祐生さんと真由美さんは、木がもつ本来の温もりを、独自のセンスと技術で表現したオーダー家具を製作する。注目するのは、去年製作したモダンインテリアのポットスタンドだ。



Profile

野中 祐生さん (40)
真由美さん (36)
ゆうき・まゆみ
オーダー家具を製作する祐生さんとカメラマンの真由美さん。



Sサイズのポットスタンドは5号鉢を入れる。木の種類はメープル、オーク、ホホワイトアッシュ、ブラックウォールナット、さくら、ヒノキの6種類。写真はオーク「プレーン」。



野中さんの作業場は自宅前の工房。小高い丘に建てた工房から見えるのどかな空気感は、創り出す製品にも表れている。



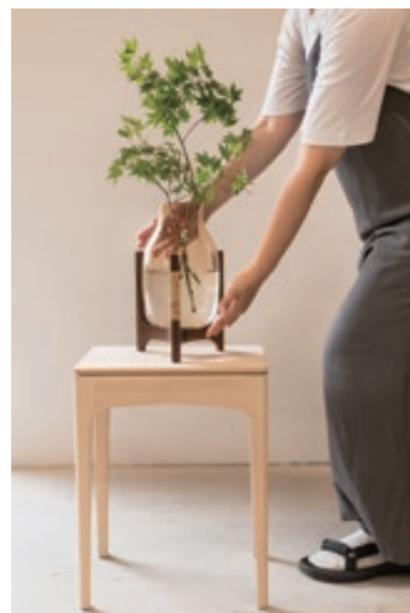
現在はトレイを製作中。他の製作事例は野中さんのInstagramで。
(@mokkou_no.ni.ne)

「販売店の仕事に就いて、そこから家具に興味を持ち始めました。普段使う家具だからこそ、生活に華やかさを添えるものでありたいです。自分には合わないと感じ、一念発起して家具製作の仕事を目指した野中祐生さん。専門学校で学んだ経験のない野中さんが訪れたのは、家具の本場、岐阜県北部に位置する飛騨高山。匠の技が今も息づく地で木材や塗装など家具についての理解を深めた。その後、故郷である愛媛を仕事の拠点にした。製作する家具はベッド、ドア、テーブル、ツールなど幅広い。ポットスタンドは昨年度愛媛県が実施した「地場産品モダンインテリア参入事業」で作られた製品だ。

イメージしたのは見た目も楽しい、贈り物にもできる少し贅沢なポットスタンド。多少値段が上がっても、生活の質を高めてくれる製品を目指した。「初めに作った4本足は全然納得いかなかった。ポットを置いたときにどうしてもガタガタしてしまいます。妻と意見を出し合い、作り直しては相談しての繰り返しでした」。試行錯誤の末に現在の形が完成した。特長的な3本足で機能性を持たせ、しなやかな曲線からは優しさが感じられる。塗装にも思いを込めた。「オイルフィニッシュの製品もありますが、ヒノキ本来の淡いピンク色を感じてほしくてソープフィニッシュで仕上げています」。

「愛媛県はヒノキの生産量が日本有数です。でも県内流通は少ない。せつかくの産業だから少しでも僕たちのような家具屋がもつ技術で、木の魅力を知っていただけたらいいなと思います」。思わず触れたくなる素材感のある家具は、きっと私たちの生活に彩を添えてくれる。

屋号の「ノニネ」は野中さんの造語。「『和も感じられるし、北欧っぽくもあるね』と言われることがあり、響きも印象的で、自分の作風にも合ってるかなと思う」。



秋にはもみじ、春には東温市の花「さくらひめ」を飾りたい。



ヒノキで作られたポットスタンド。通常の「プレーン」と藤を巻いた「ラタン」の2種類。上下どちらでも使えるよう機能性を考えた。写真はヒノキ「ラタン」。